

神奈川県立座間支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立座間支援学校 第2回学校運営協議会	
開催日時	令和5年10月27日(金) 13:30~16:30	
開催場所	座間支援学校 南棟2階 会議室	
出席者	学校運営協議会委員6名 学校職員10名 傍聴人2名	
次回開催予定	令和6年3月1日(金) 9:30~11:30	
問い合わせ先	座間支援学校 副校長 横田寿光 電話 046-255-2253 FAX 046-252-5379	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過 【学校運営協議会】	<p>・学校長挨拶 ・新委員委嘱 ・新委員自己紹介 ・本日の流れ説明 事務局 〈協議〉</p> <p>会長:みんなで学校を作るという取り組みが学校運営協議会の基本的な考えであり、本日の傍聴人の同席は画期的。通常、傍聴の方からの発言はないのだが、そのような趣旨から不明な点はぜひ質問をしていただきたい。</p> <p>① 部会報告 ○切れ目ない支援部会 9月22日(金) 第2回部会開催報告     《 意見 》</p> <p>委員:いろいろな人が進路を知る場を持つのはとても大切なこと。自分は以前この部会に加わっていた。場が継続されていてうれしい。</p> <p>委員:「切れ目ない支援」とのことだが、いつまで見守っていくのか。</p> <p>学校:この部会は、29校ある県立特別支援学校の全校に設置されている。学校種によっては幼稚部から高等部までであり、出生後から支援が始まる。特別支援学校が中心となり、高等部を卒業した後の生活まで支援をつなぐための話し合いをする部会となっている。コロナもあり書面開催が続いていた。ようやく再開した際に、まずつながっていくことが必要だと確認した。どうしていけばつながっていけるのか動き始めたところ。今後役割分担を行い、課題を絞る、という段階。</p> <p>委員:事業所と学校の連絡会とは、どのようなことを行っていたのか。</p> <p>学校:学校の様子を見学していただき情報交換を行っていた。</p> <p>委員:家庭、教育、福祉の連携については「トライアングルプロジェクト」を文部科学省と厚生労働省が提案していたが、座間支援学校ではどうなっているか?</p> <p>学校:今後行っていく</p> <p>傍聴人:この部会の部会員である。地域の小中に通学し、今肢体不自由教育部門高等部に在籍している。これまでどんなやり取りを地域としてきたのか部会で話した。経験を基に協議をさせてもらえて、とても良い会だと感じている。</p> <p>委員:より多くの当事者の方の意見を集められると良いと感じた。</p> <p>○防災部会 9月13日(水) 第2回部会開催報告     《 意見 》</p> <p>委員:学校の避難訓練は頻繁に行っているのか</p> <p>学校:毎月一回、シェイクアウト訓練を実施。実態に応じ教員が頭をカバーする訓練も行う。地震・火災は、学期に1回ずつ実施している。</p> <p>委員:座間支援が主導して防災の連携を行ってくれていてありがたい。実際に地震が起きた時どうなるのか、気になっている。自治会の方と一緒に話し合う場を持っていきたい。</p> <p>委員:地域でどれくらい学校を支援ができるのか不安。高齢化が進み、助けられることが多いので</p>	

はないかと感じる。避難をすること自体が危険な場合もあると思う。実際の場面で、お手伝いできるのか見通しが持てない。避難所が設立された段階で連携したいと思う。自治体でマニュアルは作ったが、あくまで自治体住民のためのもの。連携も誰がやるのかという役割分担は決められていない。集合した中で、その場で役割を決めていくことになるだろう。即学校との連携を図るのは難しいと想像している。時間がたてば整うかもしれない。率直なところ、時間をかけながら連携体制を整えていくことになるのではないかと考えている。

学校：まずは、学校は学校の体制を整える。次に地域との連携。横の動きを見ながら連携体制を整えるためのタイムテーブルを確認している。自治会からの課題や意見はすでにいただいている。学校側が地域に対してできることについても話し合いの観点に含まれている。3校、自治会、座間市と、お互いができることを確認し、作っているところ。令和6年度での合同避難訓練実施を目標にしている。

委員：特別支援学校に通っている子は助けられるだけの存在ではない。自分の身は自分で守る。他者を助ける存在でもある。3.11にどのようなことが起きたか、改めて確認する必要がある。先日訪問した長野県の特別支援学校では理科の学習で防災教育を行っていた。教科学習を含め、日常的な学習のなかで、考える・感じるという学びを行っていくことがとても大事だと思う。

## ② 学校運営

○学校評価の流れについて説明

○令和5年度各学部、分教室、各分掌の取り組みについて報告

◀ 協議意見交換 ▶

・高等部西の地域連携に向けた具体的な取り組みについて

委員：JAでは可能なことは取り組みができる。

委員：フラワーアレンジメントは紹介可能。調べてお知らせできる。所属にも窯があり、フリーマーケットに出し好評だった。固定客がついている。高価なものでも購入してくれる。地域のお祭りやフリーマーケットに参加できるか聞けると良い。所属の清掃班に聞いてもよい。

委員：協働先にとって取り組む意味・意義を考えることが必要。先方が、一緒に取り組んでいると認識することが大切。やってあげているでは協働ではない。一緒に教育を行っていると思ってもらえているかが重要。特別支援学校の製品だから置いてあげるでは協働ではない。

委員：協働先からの要望や提案はどうやって聞くのか。

学校：実際に作業班の営業部生徒がサイズや形状、置き方等聞き取りに行く。

委員：地域が協働したいと考えて時の連絡先は。

学校：教頭か副校長が最初の窓口となる。

・学校評価の流れ、各部の取組について

委員：教員から委員に聞きたいことは。

学校：今後の4年間の目標、学校の在り方を考えるうえで何を視点に持って行ったらよいか。最近の社会情勢、教育情勢等で参考になることはないか。

委員：県教委から届いている座間支援学校のミッションを聞いてから話し合うことでどうか。

委員：学校運営協議会で学校評価全体を行うことは難しい作業である。日常的に行っていることの振り返りとミッションからできた学校評価をどうむすび付けたらよいか、考えていこう。

学校：どう評価検証していくか。数値化できるものは数値化、そうでないものは根拠を明確にしていきたい。

○「座間支援学校のミッション」について

・県から示されたミッションと、ミッションに基づく4年間の目標策定について説明

委員：ミッションは指針と考える。大切にしてほしいことである。重要なのは10年後を指標にして考えること。4年間の目標策定に学校運営協議会はどのように関わるのか。

学校：3月に素案を検討していただく。

委員：それでは策定に加わっていることにはならないのではないかと。ある程度決まった状況を追認するというにならないよう、方法を検討してほしい。

委員：福祉事業所の行っている評価は非常に具体的なものである。学校にとって非常に参考になる

	<p>ので、この会が幾つか参考例をみられるとよい。</p> <p>委員：センター的機能とは共生社会実現のためのものであり、インクルーシブな学校作りが神奈川の目標。「地域の子どもは地域の学校で」、が神奈川を目指してきたものと思う。小中学校の個別ケースについて相談に応じることは、センター的機能はほんのごく一部。子どもたちが居住地の学校で学ぶために役割を果たすのが特別支援学校のセンター的機能と思う。地域の小中学校との連携はそれのためのもの。どのようにして一緒に開発していくのか。今後の10年間の座間支援学校の充実を閉じられたものでなく開かれたものにしていくかの視点は重要である。</p> <p>学校：どこの自治体が進んでいるのか。どこを参考にすべきか情報があれば。</p> <p>委員：実は神奈川が最先端と思う。したがってモデルはない。今後をどうしていくか皆で考えるというプロセスを踏まえていくことが重要である。どううまくいっているかいないか、言語化することが評価。数値化できるものは行うことが大切である。</p> <p>学校：次の4年間の目標策定について委員の方からのお考えを聞く方法は検討し、お知らせする。</p> <p>委員：これまで学校の様子を見る機会が持っていない。学校見学の日の候補を示していただきたい。</p> <p>③ その他 なし ・事務連絡</p> <p>学校：次の4年間の目標策定について、委員からの意見集約の方法は後日お知らせする。次回の学校運営協議会は令和6年3月1日（金）9時30分。</p>
<p>会議資料</p>	<p>第2回学校運営協議会次第 令和5年度学校評価（中間評価） 令和5年度第2回学校運営協議会プレゼン資料 令和5年度学校案内</p>